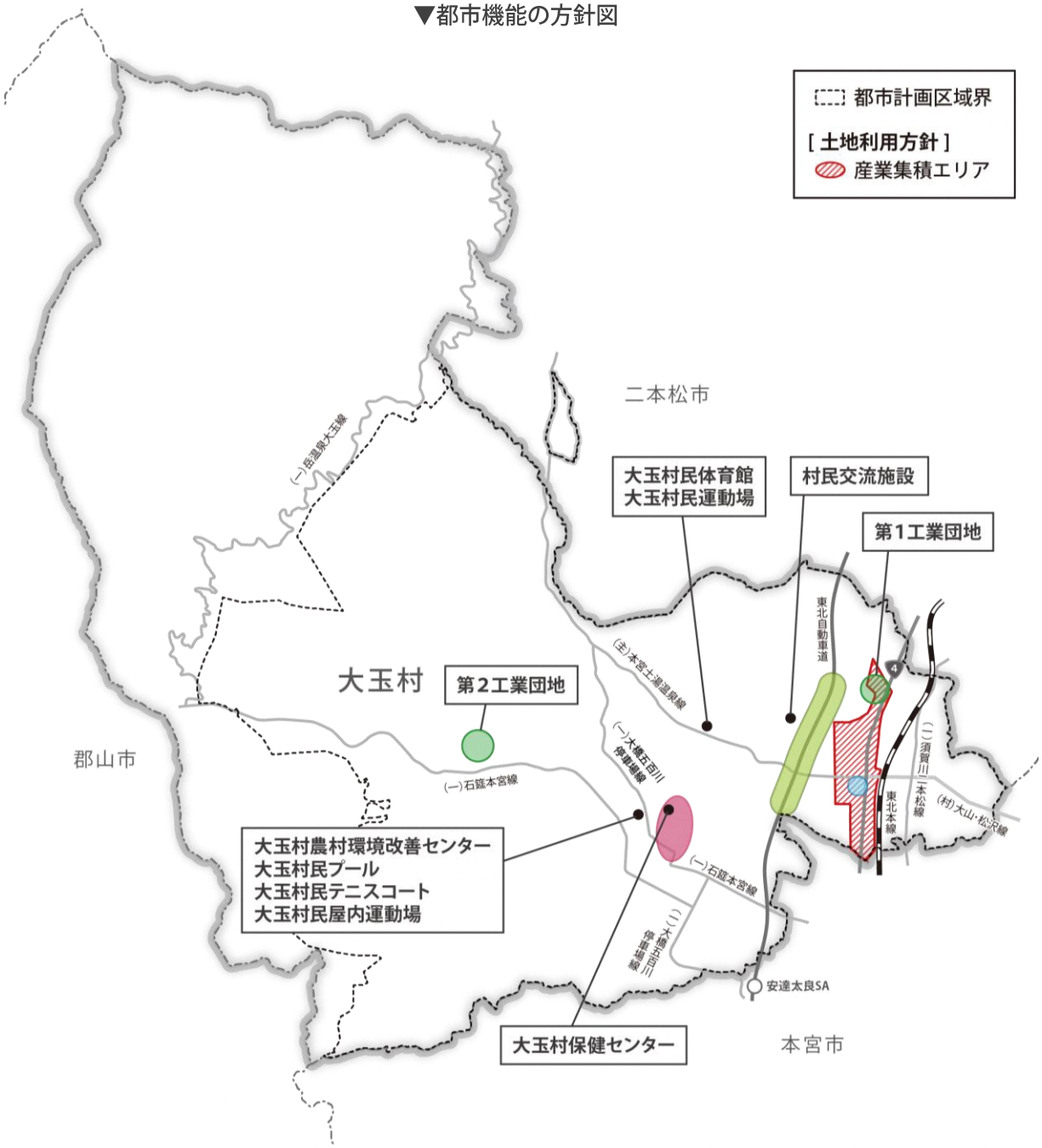
資料2 別紙

第1章
第2章
第3章
第4章
第5章
第6章
資料編

▼都市機能の方針図



エリア等	方針内容
産業集積エリア	新たな工業団地の造成など企業が進出しやすい環境を整え、村内で働ける場を創出します
中心拠点	役場を中心として、住民の生活に関わる各種行政サービス施設の集積、日常生活に必要な施設の集積を図り、大玉村の中心としての拠点性を高める。
工業集積拠点	第１工業団地、第２工業団地における工業施設の適正な活用を図る。
大玉ゲートウェイ（地域振興拠点）	あだたらの里直売所並びに大玉村ふれあい広場を活かした地域振興施設の整備検討を進め、人・モノが交流する拠点の形成を図る。
大玉ゲートウェイ（交流交通拠点）	スマート IC の整備に向けた検討を進め、広域的な交流等を図る。

6-1 将来像実現に向けた方策

本マスタープランが示す都市づくりの基本理念と将来都市構造といった大玉村の将来像を実現するために、分野別の取組方針の中から特に計画の実現に必要な取り組みとして、優先的に実施すべき事業や、重点的に推進すべきと考える方策５項目を整理しました。

（1）国道４号沿道ゾーンへの企業進出の誘導

国道４号沿道ゾーンは、４万台/日を超える自動車が通過し、大玉村の玄関口として大きなポテンシャルを有しておりますが、国道周辺の土地は、農業振興地域内の優良農地であるため、企業進出が進んでいない課題があります。このゾーンは、農業振興に資する施設や、沿道サービス施設、土地収用法対象事業などの整備においては、農地転用許可を例外的に受けることができる可能性があることから、これらの事業や方策を一体的に推進することで、大玉村でのにぎわい拠点を創出します。また、オーダーメイド方式等による新たな工業団地を造成し企業が進出しやすい環境を整え、働く場「大玉ゲートウェイ（工業団地拠点）」を創出します。

（2）公共施設の更新及び公園等の整備

大玉村では、公共施設の現状を把握し、今後の需要変化に応じた必要なサービスをより良い形で提供できるよう、公共施設等の最適化に取り組むとともに、住民ニーズに対応した施設整備・更新等を進めます。今後、村民交流施設の建設、さくら公園の整備拡張、再エネ・アグリパークの整備とふれあい村民の森やアットホームおおたま周辺施設などの利活用の推進を検討していきます。

（3）スマート IC の整備に向けた検討

大玉村にとって、住民生活の利便性の向上や産業振興、観光来訪の促進を図る上で、高速アクセス性の確保は重要な課題となっております。スマート IC の整備は、都市圏へのアクセス性が向上することで日常生活の利便性が増し、また、国道４号沿道ゾーンとの連携軸が新たに構築されることで企業誘致の促進が期待されます。さらには、観光資源へのアクセス所要時間の短縮や新たな周遊ルートの創出等により、村内観光施設への来訪者数の増加も期待されます。10 年後、20 年後の大玉村の発展と自立を考えるとき、大きな整備効果をもたらすスマート IC の整備に向けた検討を進めます。

（4）高速道路バスストップの再整備

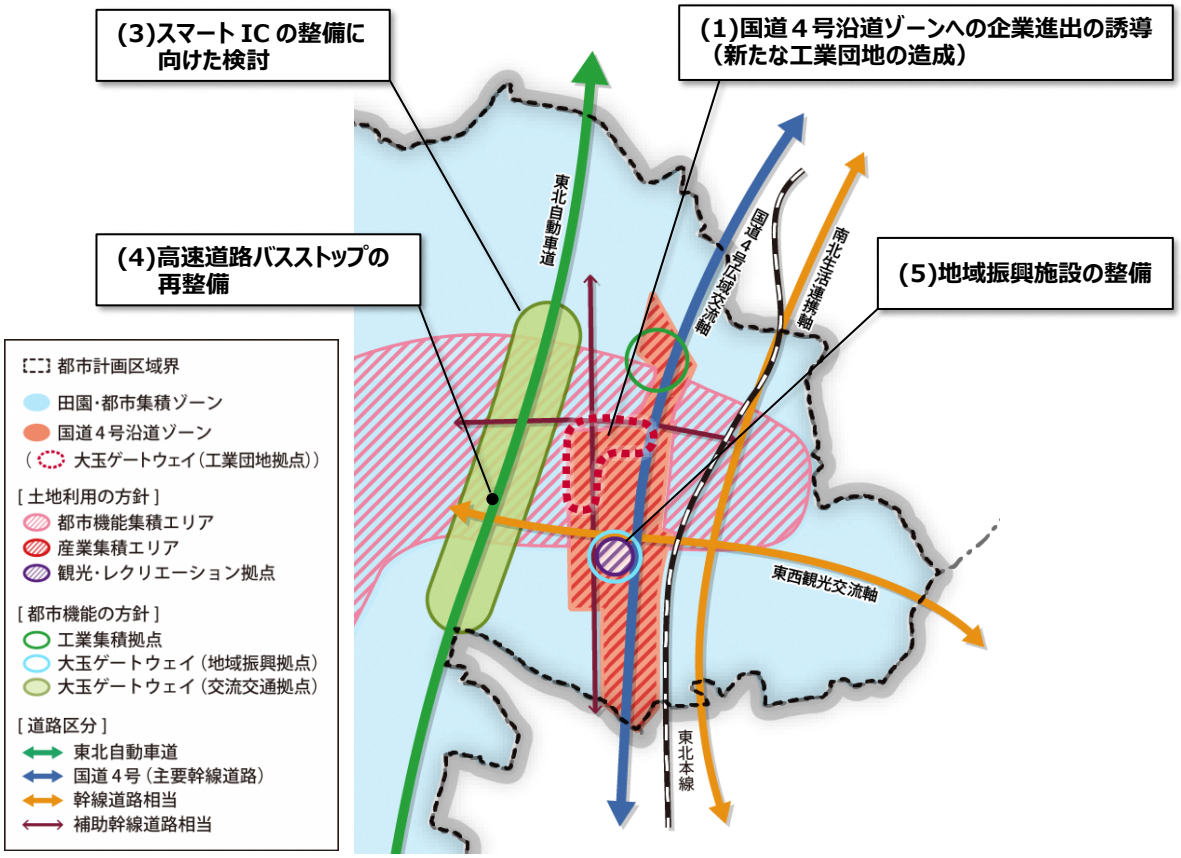
大玉村には、鉄道駅がなく、JR 東北本線の利用にあたっては、近隣市の本宮駅（本宮市）、杉田駅（二本松市）を利用することとなり、都市圏へのアクセスの不便さが、公共交通の満足度が低い一つの要因となっています。これを補完するため、高速道路バスストップの運用再開を重要な方策として掲げ、通勤・通院・買物等のアクセスの確保と近隣及び県外都市圏へのアクセスの確保を行います。

（5）地域振興施設の整備

あだたらの里直売所は、村内農家の主要な販路の一つになっており、年間を通してにぎわいをみせていますが、施設規模等から売り上げは高水準ながらも横ばい傾向で推移しています。今後、地場産品の販売・販路の拡大等により、農業の経営安定と経済循環の活性化が求められています。

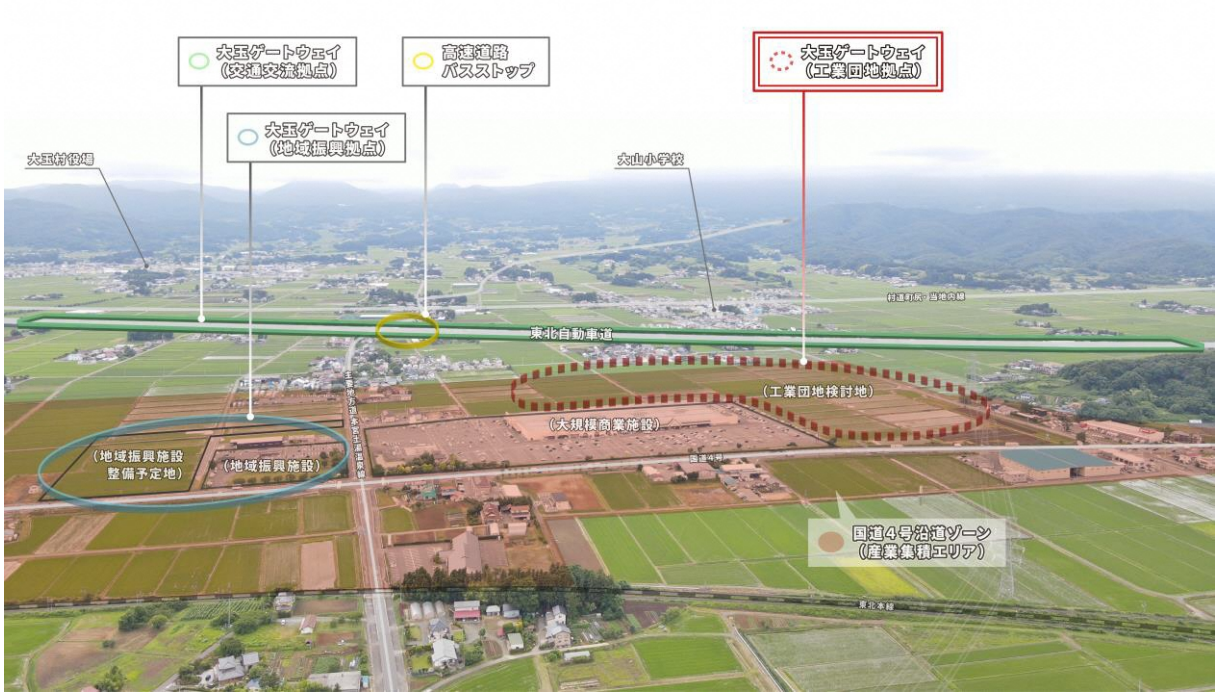
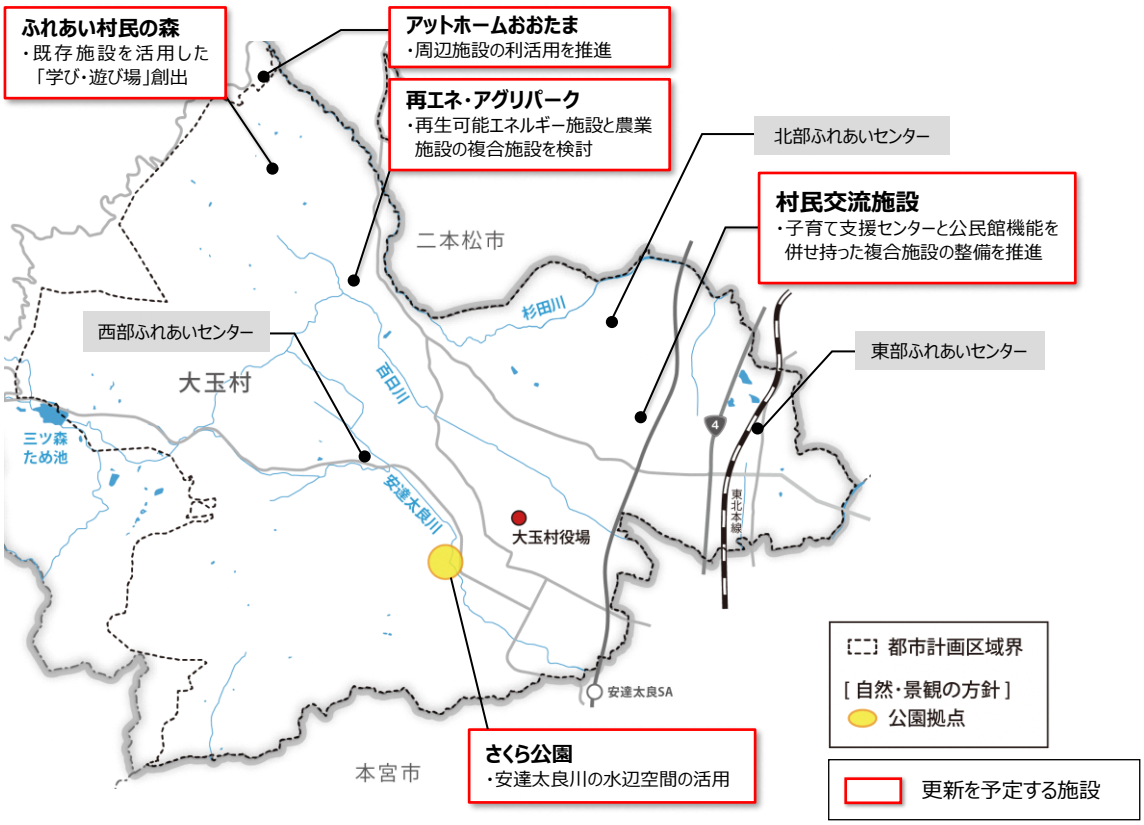
国道４号と主要地方道本宮土湯温泉線の結節点にある優位性を活かし、さらにはスマート IC の整備検討と関連づけた新たな観光拠点の形成を見据えつつ、あだたらの里直売所周辺の地域振興施設の整備を行います。休憩ついでの「立ち寄り型」の施設から、施設自体が「目的型」へと変化していく必要があり、これまで以上の機能強化を図ります。

▼将来像の実現に向けた方策図



第1章
第2章
第3章
第4章
第5章
第6章
資料編

▼将来像の実現に向けた整備構想図



▼「(2) 公共施設の更新及び公園等の整備」に関わる更新予定施設